

本案は、JICA からの依頼で、国際理解教育／開発教育の実践経験のある学校現場の先生に、「各テーマ約 10 分の映像教材を利用して 1 時限で実践」という設定で作成いただいた授業案です。内容や時間配分についてはあくまで参考として、学年や学級や教科、授業の目的等の状況に合わせて、適宜ご活用ください。

## 難民についての学習指導案

群馬県立桐生女子高等学校  
指導者 田中隆志

### 1 対 象 高校生

### 2 現行学習指導要領（高校）との関連性

【地理 A】(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察、ウ 地球的課題の地理的考察

【地理 B】(3) 現代世界の系統地理的考察、イ 資源、産業、ウ 人口、都市・村落、エ 生活文化、民族・宗教

【世界史 A】(3) 地球社会と日本 エ 地球社会への歩みと課題、オ 持続可能な社会への展望

【世界史 B】(5) 地球世界の到来 エ グローバル化した世界と日本、オ 資料を活用して探究する地球世界の課題

【現代社会】(1) 私たちの生きる社会

【現代社会】(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 ウ 個人の尊重と法の支配、オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割

【現代社会】(3) 共に生きる社会を目指して

【政治経済】(1) 現代の政治 イ 現代の国際政治

【政治経済】(3) 現代社会の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題

【総合的な学習の時間】

### 3 単元の目標

- 1 難民問題が、世界各地で生起している様子や、その発生要因にどのような共通性があるのかを理解させる。
- 2 難民問題は、持続可能な社会を実現するために、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であるということ認識させる。

### 4 展 開 (50 分)

段階	学習活動及び学習内容（生徒の活動）	指導上の留意点
導入 10 分	<p>1 難民とは何か</p> <p>(1) 【映像①国を逃れる人々 (1:00)】を視聴する。</p> <p>(2) グループで、「難民」とはどのような人々をいうか考えをまとめ、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでいた国や地域を追われる人たち。</li> <li>・死の危険から逃れるために、外国に逃げている人たち。</li> </ul> <p>(3) 難民の発生要因として何があるか、グループで話し合い、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争、内戦、飢饉、海面上昇による生活場所の水没など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6 人のグループ学習を行うことを確認。</li> <li>・「難民」とは何かを考えながら、映像①を視聴させる。</li> <li>・生徒の発表後、一般的な定義としては「自国の迫害や危険を避けるため他国に逃れる者」であることを示す、また決して先進国のみを目指しているわけではないということを伝える。(参考：UNHCR の難民統計によれば難民の約 86%が開発途上国で受け入れられている)。</li> <li>・発表後、国内での経済的不満や生活困窮、さらには深刻な飢餓から逃れるために他国に逃れる「経済的な移民」と、政治的意見や思想を理由とした迫害、政治的な理由による内戦などを避けるため他国に逃れた「難民」に分かれることを示す。</li> <li>※教科書・副教材等に「難民条約」の記載がある場合は、第一条 A(二)を確認してもよい(条約上は、難民とする理由は人種、宗教、国籍、政治的意見、属している社会グループの 5 つであるが、実際には紛争や戦争などによって国境を越え、他国に庇護を求めるケースも多い。現実的には、難民を明確に分類化することは困難である)条約上では、国際的に、すべての難民が保護されている。</li> <li>・難民と同様の事情をかかえつつ、国境を越えず国内の別</li> </ul>

		<p>の場所に避難している人々は、国内避難民（IDP）と呼ばれることも示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年時点で、家を追われた人々の数は、難民は約2250万人、国内避難民は4030万人強おり、合計すると日本の人口の約半分近い人々が住む場所を追われていることを示す。</li> <li>・難民については、その51%が18歳未満の子供で、「戦争や内戦」を要因としたシリア、アフガニスタン、南スーダン、パレスチナ難民が多いことを示す。</li> </ul>
<p>本論 15分</p>	<p>2 各地のシリア難民の実態</p> <p>(1) 【映像①逃れた後の生活（3:52）】を視聴する。</p> <p>(2) 各地のシリア難民が、難民キャンプ、ドイツ、レバノンのそれぞれで、どのような生活を送っているか、また将来どうなることを望んでいるのか、グループで話し合い発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <p>《周辺国・ヨルダンのザータリ難民キャンプ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の危険はない。ただ劣悪な生活環境。より衣食住が充足した文化的で衛生的な生活を送りたいと考えている。</li> </ul> <p>《第三国のドイツ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の生活は落ち着いている。ただいつか祖国を復興させたい、祖国に戻りたいという思いをもっている。</li> </ul> <p>《周辺国のレバノン》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が少なく学校に子供たちを通わせる余裕はない。子供の将来を思うと、他の国に出る必要があると考えている。</li> <li>・難民になったからと言って、生活や将来が保障されているわけではない</li> <li>・難民に対する援助は限定的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界最大の人口規模であるシリア難民が、各地でどのような生活を送っているか、将来どうなることを望んでいるのかを考えて、映像視聴するように指示を出す。</li> <li>・視聴後、グループ内で意見をまとめさせ、発表させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表後、周辺国の難民キャンプや、レバノンの生活は収入面、子供の教育面で課題がある。第三国ドイツでは一見、その心配は少なそうだが、現実には厳しい。ただし祖国への思いは同じようであり、逃れた後も難民の挑戦（生活、教育、将来など）が続く状況にあることを指摘する。 ※祖国へ戻りたい人々が多いながらも、実際には祖国の状況が壊滅的で、帰らない選択をする人々も少なくない。2017年現在、シリアの状況が戦争前のGDPに戻るには20年かかるといわれており、そのような状況で難民の人々が祖国に戻ることが、当事者の彼らにとって本当にいいことなのかも議論されている。</li> <li>・時間があれば、周辺国の難民キャンプ、レバノンでの難民が生活に満足していない理由を尋ねてもよい。解決方法が見つからず先の見えない不安、今までコツコツ築きあげてきた多くのものが壊されてしまったことや、難民の流入が多すぎて、支援不足に陥っていること、もともとシリア難民が、生活水準が高い人たちであったことなどがあげられる。</li> </ul>

<p>本論 10分</p>	<p>3 難民の受け入れ (1) 【映像③各国の難民受け入れ状況 (5:00)】を視聴する。</p> <p>(2) ヨーロッパでのシリア難民受け入れにおける懸念点と、その払拭のための解決法として考えられることはないか、グループで話し合い、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <p>○難民受け入れにおける懸念点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロリストが偽装難民として紛れ込んでいる可能から、住民の安全が脅かされる心配と恐怖。</li> <li>・表面的に異質な存在（服装・食文化・信仰）を受け入れたくないという漠然とした拒否反応。</li> <li>・国の財政負担が大きくなるのではないかという心配。</li> <li>・失業率の高い中で難民を受け入れることにより、受け入れ国の若者の就労の機会が失われるという懸念。</li> </ul> <p>○想定される解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ難民が自国に移ることを認めるのではなく、人権を尊重し受け入れることが、平和な世界の構築に寄与していることを理解する。</li> <li>・異文化を拒否・排除するのではなく、まずは互いに知ることから始める。どうすれば共に望ましい社会が作れるか話し合う。</li> <li>・実際に難民の中には、高度な技術や能力を持っており、祖国で平穩に暮らしていた時には活躍していた人材もいる。難民を一概に否定するのではなく、受け入れ国にて彼らが活躍することが、社会の発展に貢献することを理解する。</li> <li>・テロリストが入れないように入国チェックを厳しくする。</li> <li>・国際機関や国際社会で、受け入れ国に対して財政支援するシステムを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ諸国で、シリア難民受け入れ賛否の理由を考えつつ、映像視聴させる。</li> </ul> <p>※偽装難民がテロリストの可能性も否定できないながらも、異国の者ではなく、育った国で差別をされ続けた人々がテロを起こす (home grown terrorist) ことも昨今少なくはないことを、指摘してもよい。</p> <p>※難民の受け入れが失業率の低下を招いているかを別の授業で取り扱ってもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難民を受け入れる側でも、経済的、心理的に負担・不安は大きい。日本を含めて、国際機関や国際社会で、①受け入れ国の負担・不安を軽減する努力、②受け入れ国で難民が学ぶ、働く、交流すること等が我々にとっても恩恵となりえることへの理解、が必要であることを示す。</li> </ul>
<p>本論 10分</p>	<p>4 日本は、難民の受け入れの検討にあたり、どのような対応・配慮・対策が必要になるのか具体的に話し合い、まとめ、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別をしたり、偏見を持つことがないよう、学校や職場などで、「難民」について知るための取り組みを行う。</li> <li>・シリア難民などイスラム教を信仰する人たちも多い。様々な価値観・宗教の人たちと共生できるよう、地域や行政が、イスラム教の理解やハラールメニューを出す店舗、礼拝所の普及などを積極的に支援していく。</li> <li>・難民の受け入れを進め、日本で就学・就労できるように、語学訓練、就労訓練などの機会を増やす。</li> <li>・日本にいる難民の人々と交流してみる。</li> <li>・難民の受け入れを進めるために何が必要かを難民の人たちと話し合っ理解し、それに沿った支援をする。また、受け入れ社会の一人として自分にできることを探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年2月、日本政府はシリアの難民のうち、留学生を、2017年から5年間で最大300人を受け入れることを発表し、シリア難民への門戸が開かれた。今後、本格化する難民の受け入れに、日本社会ではどのような準備・対応・配慮・対策が必要になるのか、個人、コミュニティ、国家などのレベルで必要と思われる具体策をグループで話し合わせ、発表させる。</li> <li>・留学生の家族も一緒に来日することになっていて、その中には学校へ通ったり、仕事についたりという者もでてくる。またシリア難民の多くはイスラム教徒であるといった、生徒が考えるヒントを与えていく。</li> <li>・発表後、日本は従来、UNCHR(国連難民高等難民弁務官事務所)への拠出金も多いものの(統計年度によるが世界4~5位)、難民受け入れ総数は、人口比率に対し、また経済規模に対し他国に比べ低い状況にある。そのため、「難民受け入れに冷たい」という声もあり、また難民認定の基準も国際基準からみて厳しかった。そのような中今回の留学生受け入れが決まり、将来的に受け入れに関する議論が活発に行われる時期に入ったと告げる。</li> </ul>

ま と め 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>難民の受け入れについては、持続可能な社会を実現するために、世界全体で取り組まなければならない課題であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難民問題は、難民だけでなく、難民受け入れ国に大きな課題や負担を強いるものと言われているが、世界全体、国、コミュニティ、個人と様々なレベルで取り組むべき共通の課題であると示す</li> <li>日本でも過去、1986年の三原山大噴火、1995年阪神大震災、2011年東日本大震災などで多くの国内避難民が発生している。いつ自分が難民の当事者になるかもしれず、難民問題は他人事ではない課題であることも最後に示す。</li> </ul>
-------------------	---	---

## 5 評価の観点

① 関心・意欲・態度	グループ内の話し合いに積極的に参加し、発表することができたか。
② 思考・判断	教師の提示資料に対して、的確な考察をすることができたか。 現実の世界では政治、経済、社会的要因が複合的に絡み合っていることの認知が出来たか。
③ 技能・表現	自分の考察結果を、的確な表現で発表することができたか。
④ 知識・理解	難民問題は、世界全体で協力して取り組むべきものだと理解できたか。 個人個人でできることがあることが理解できたか。

## 6 関連リンク

### 難民について

- UNHCR(国連難民高等弁官事務所)駐日事務所のホームページ  
<http://www.unhcr.org/jp/>  
 →生徒向けの教材 <http://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/04/uniqlotextbook.pdf>  
 生徒向け教材P.6～7の答え [http://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/04/answer\\_3.pdf](http://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/04/answer_3.pdf)  
 移民と難民の違い FAQ (英語)  
<http://www.unhcr.org/afr/news/latest/2016/3/56e95c676/refugees-migrants-frequently-asked-questions-faqs.html>
- UNHCR(国連難民高等弁官事務所)のホームページ  
<https://www.japanforunhcr.org/>  
 →UNHCRの教育関係者が活用できるコンテンツやイベント <http://www.japanforunhcr.org/support/orgs/>  
 難民・国内避難民・無国籍者の説明 <http://www.japanforunhcr.org/unhcr/refugees/>  
 2016年時点での難民に関するデータ <https://www.japanforunhcr.org/archives/13480>
- 認定NPO法人 難民支援協会  
<https://www.refugee.or.jp/>  
 →日本にいる難民の話 <https://www.refugee.or.jp/story/main.shtml>  
 難民にまつわるよくある質問 <https://www.refugee.or.jp/jar/report/2016/04/15-0000.shtml>  
 学校向けのプログラム <https://www.refugee.or.jp/support/school.shtml>  
 事務局長講演(世界難民の日2014)石川えり <https://youtu.be/eGiHWUdYJ8>
- 特別非営利法人 難民を助ける会  
<http://www.aarjapan.gr.jp/about/>  
 →教育現場への出前授業などのサポートプログラム <http://www.aarjapan.gr.jp/school/>
- 「欧州の難民は社会に溶け込むことができるのか？」(NHK BS1 ワールドウォッチング)  
<http://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2016/10/1025.html>
- 平成28年における難民認定者数について(速報値)(法務省・入国管理局プレスリリース平成29年2月10日分より)  
[http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03\\_00666.html](http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03_00666.html)